

## 報 告

## 平成 25 年度学生生活実態調査報告（萩キャンパス）

西本佳代\*1

キーワード：学生調査、アンケート

## 1 はじめに

平成 24 年度より山口福祉文化大学萩キャンパスに入学した新生を対象として生活実態調査を行っている。平成 25 年度入学生についても調査を実施し、平成 24 年度入学生との比較分析を行った。本稿は、その調査結果を報告すると共に、調査で得られた知見から平成 25 年度入学生の特徴について考察することを目的としている。

西本（2013）で指摘した通り、近年「学生中心の大学づくり」の必要性が叫ばれているものの、改革の多くで学生が置き去りにされている<sup>1)</sup>。すなわち、大学改革の多くが「学生のニーズ」を強調しているが、そこでの「学生のニーズ」とは、大学経営者や教員のイメージによって形成されたものが多く、結果として、大学が提供するカリキュラムと学生が求める知識・技能がミスマッチをおこしている可能性がある<sup>2)</sup>。

そこで、本学では学生の実態を把握するため、平成 24 年度より萩キャンパスに入学した学生を対象とした生活実態調査を開始した。しかしながら、単年の調査のみではその特徴を十分に明らかにできない。そのため、平成 25 年度入学生についても継続的に調査を実施し、平成 24 年度入学生との比較から特徴を検討することとした。彼らはどのような生活を送り、どのように学習に励んでいるのだろうか。その現状を知ること、今後、生活環境や学習環境を整備する際の基礎的な資料にできると考える。

## 2 分析の方法

2013 年 6 月に平成 25 年度入学生の必修科目「基礎ゼミ I」の時間の一部を使って質問紙調査を実施した。平成 25 年度に本学萩キャンパスに入学した学生は 54 名であり、そのうち 41 名から回答を得ることができた。回収率は、75.9%である。

分析対象者の属性は、表 1 の通りである。性別は、男性 55.0%、女性 45.0%であり、男性の方が若干多くなっている。年齢については、18 歳が 75.6%と約 8 割を占めており、浪人をせずに本学へ入学している学生がほとんどであることがわかる。

以下では、この 41 名の平成 25 年度入学生を対象とし、大学入学以前の経験、学業、課外活動、就職、健康、アルバイトの 6 点について、前年度入学生との違いに着目しながら報告する。

表 1. 分析対象者の属性

男	女	合計
55.0	45.0	100.0 (40)
18歳	19歳	合計
75.6	24.4	100.0 (41)

\*1 山口福祉文化大学 ライフデザイン学部

### 3 調査結果

#### 3-1 大学入学以前の経験

##### ①出身地

平成24年度入学生同様に「九州・沖縄地方」の出身者が最も多くなっていた<sup>註1)</sup>。一方、県内出身者の微増もみられた。「萩市」「萩市を除く山口県」をあわせた県内出身者の合計数は、平成24年度の5人から平成25年度の9人へと変化した。

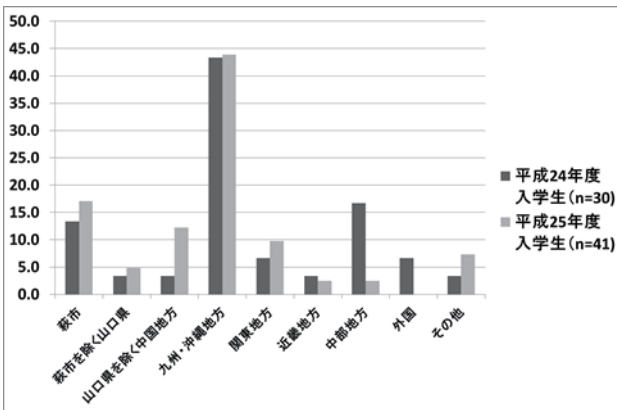


図1. 出身地

##### ②出身高校

平成24年度入学生同様に「普通科系」出身者が最も多くなっていた。なお、平成24年度入学生には見られなかった「農業科系」と「家政科系」の該当者が平成25年度入学生には見られた。それぞれ「農業科系」7.5%（3名）、「家政科系」2.5%（1名）となっている。

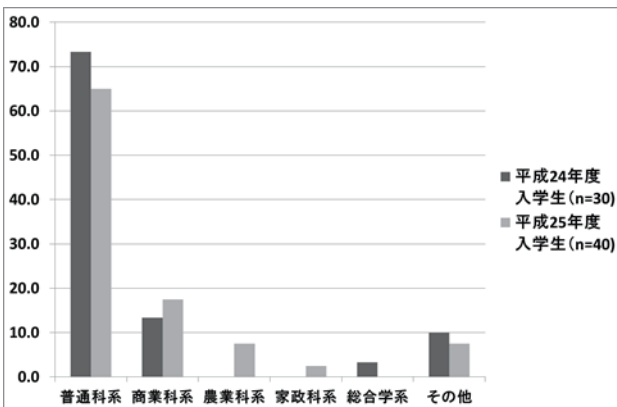


図2. 出身高校

##### ③高校3年時の学習時間

高校3年時の家庭や塾での学習時間は、「していない」が56.1%となっており、平成24年度入学生よりも該当者の割合が若干だが減っている。一方、「1時間程度」（31.7%）、「2時間程度」（9.8%）、「3時間程度」（2.4%）の該当者の割合はわずかながら増加している。

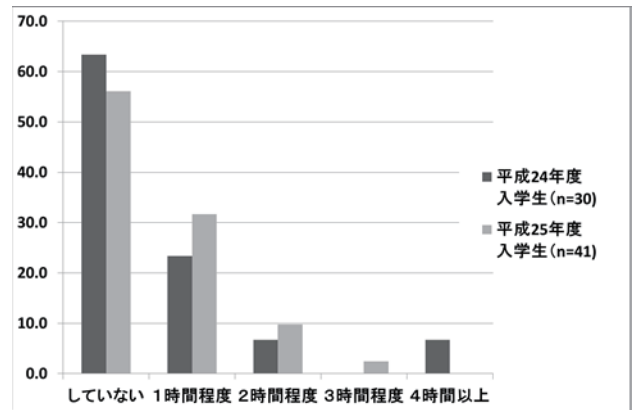


図3. 高校3年時の学習時間

#### 3-2 学業

##### ①授業への出席状況

平成24年度入学生と比べ、平成25年度入学生では、授業に「50%程度」出席する学生、「70%程度」出席する学生が増え、「90%以上」出席する学生の割合が減っている。なお、授業時に調査を実施したため、授業に出ていない学生の状態は反映されていない。

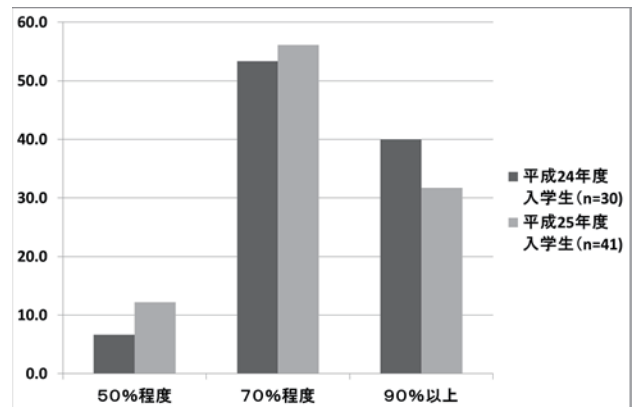


図4. 授業への出席状況

## ②授業の欠席理由

平成24年度入学生同様に「寝坊」を理由として挙げる学生が最も多くなっていた。なお、平成24年度入学生と比べ、平成25年度入学生は、授業の欠席理由として「部活・サークル」を挙げる学生が増加した。「部活・サークル」に22.5%（9名）が該当している。

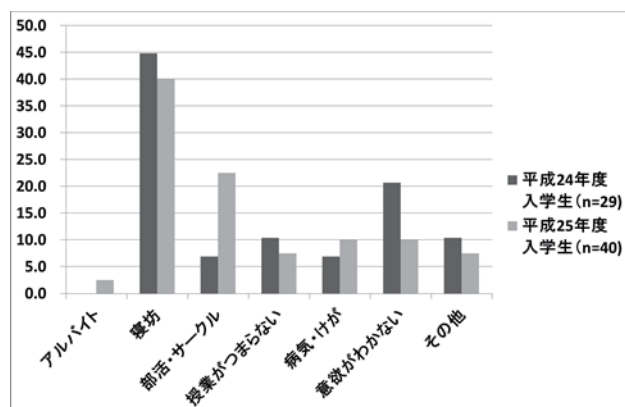


図5. 授業の欠席理由

## ②に入った動機（所属者のみ）

平成24年度入学生同様に「スポーツ推薦で入学したから」を理由として挙げるものが最も多くなっていた。一方、「特技を伸ばすため」の該当者の割合が減り、「活動内容に魅力を感じたから」「先輩・友人に薦められて」の該当者の割合が増加している。

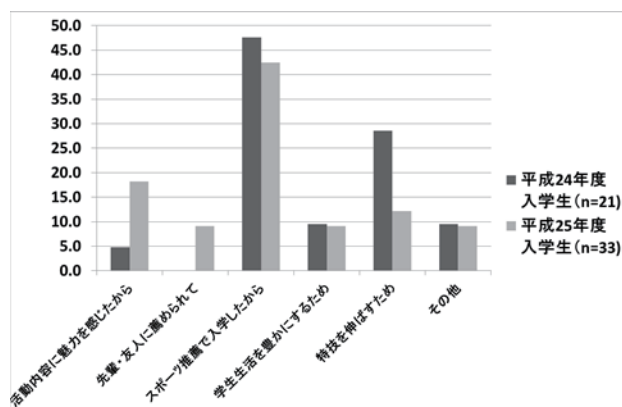


図7. に入った動機

## 3-3 課外活動

### ①部活・サークル・同好会への所属

平成24年度入学生と比べ、平成25年度入学生の方が部活・サークル・同好会へ所属する割合が高い。平成25年度入学生は、「入っている」80.5%（33名）、「入っていない」19.5%（8名）という値を示していた。

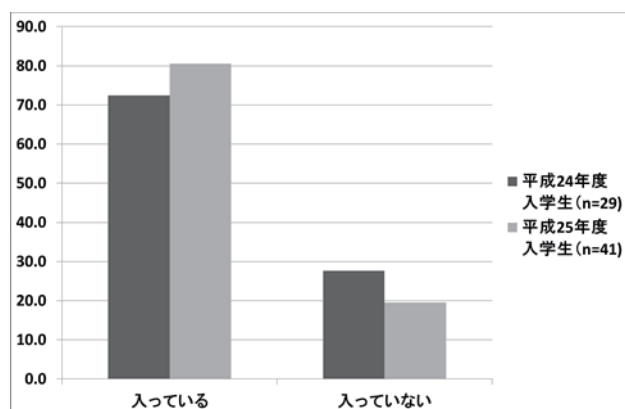


図6. 部活・サークル・同好会への所属

### ③入らない理由（未所属者のみ）

平成25年度入学生のうち、部活・サークル・同好会に所属していない学生に対して、入らない理由を尋ねたところ、「時間的余裕がない」が42.9%（3名）と最も多くなっていた。平成24年度入学生に多かった「その他」は減少している。

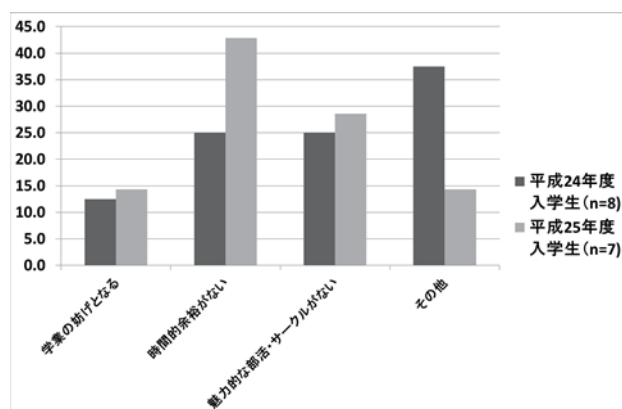


図8. 入らない理由

### 3-4 就職

#### ①進路希望

平成24年度入学生と比べ、平成25年度入学生は進路希望が明確である。平成24年度入学生の「決めていない」66.7%（20名）、「決めている」33.3%（10名）に対し、平成25年度入学生は「決めていない」39.0%（16名）、「決めている」61.0%（25名）となっている。

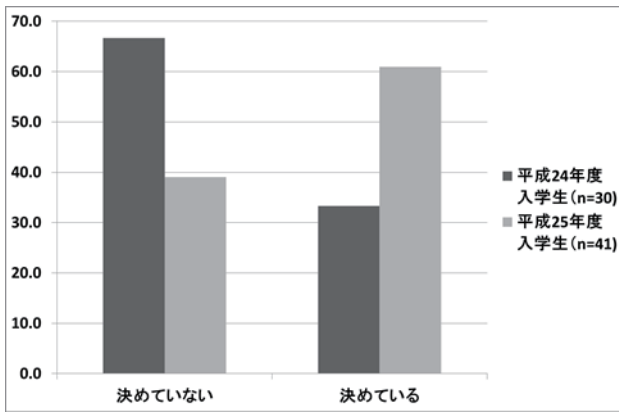


図9. 進路希望

### 3-5 健康

#### ①現在の健康状態

平成24年度入学生と比べ、平成25年度入学生の健康状態はよいといえそうだ。「良い」の該当者が20.0%（6名）から51.2%（21名）とへ増加し、「どちらとも言えない」「悪い」「非常に悪い」の該当者の割合はいずれも減少している。

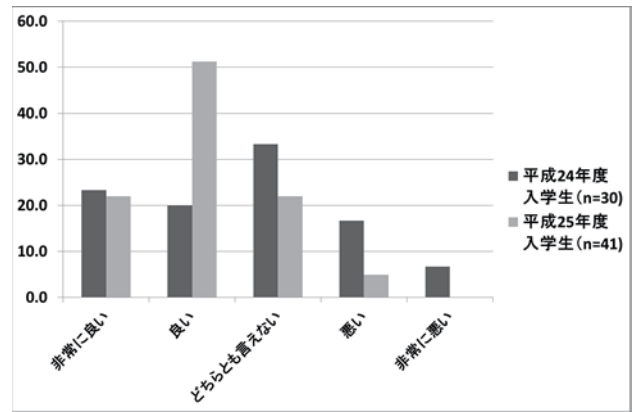


図11. 現在の健康状態

#### ②希望する就職地

平成25年度入学生の希望する就職地は「未定」が34.1%（14名）と最も多くなっていた。平成25年度入学生では県内出身者が微増したものの、就職希望地として県内を挙げる学生が少数（「萩市」「萩市を除く山口県」をあわせると2名）であることが注目される。

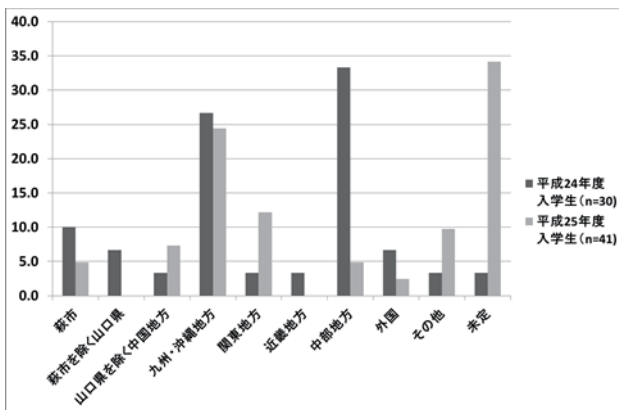


図10. 希望する就職地

#### ②平均就寝時刻

平成25年度入学生の平均就寝時刻は「0時～1時まで」が最も多く、43.9%（18名）となっていた。平成24年度入学生と比べると、「0時～1時まで」の該当者の割合が増加し、「1時～2時まで」「2時以降」の該当者の割合が減少していることがわかる。

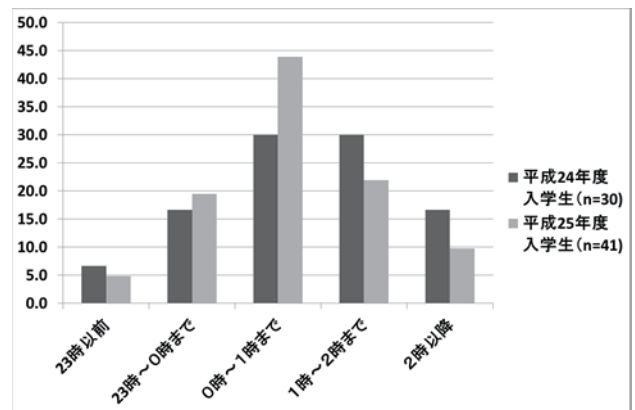


図12. 平均就寝時刻

### ③平均睡眠時間

平成25年度入学生の平均睡眠時間は「約5時間」が最も多く、39.0%（16名）となっていた。NHKの調査によれば、日本人の平日の平均睡眠時間は7時間14分だという<sup>3)</sup>。平成24年度入学生と同様に、睡眠時間が不足している学生が多いことがわかる。

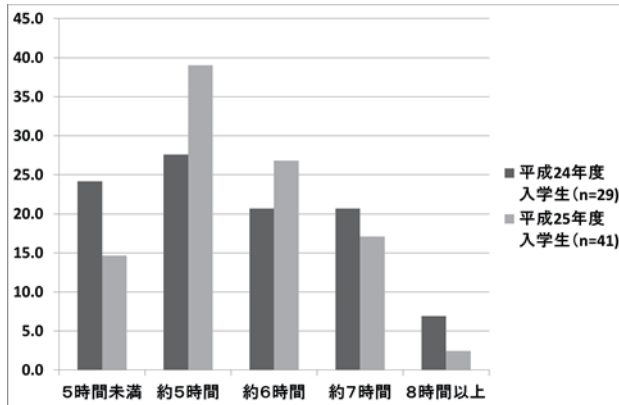


図13. 平均睡眠時間

### ⑤食事回数

平成25年度入学生では、一日の食事回数が「3回」と回答する者が最も多く73.2%（30名）となっていた。また、若干ではあるが、平成24年度入学生よりも平成25年度入学生の方が、一日に3回食事する学生の割合が増え、2回食事する学生の割合が減っている。

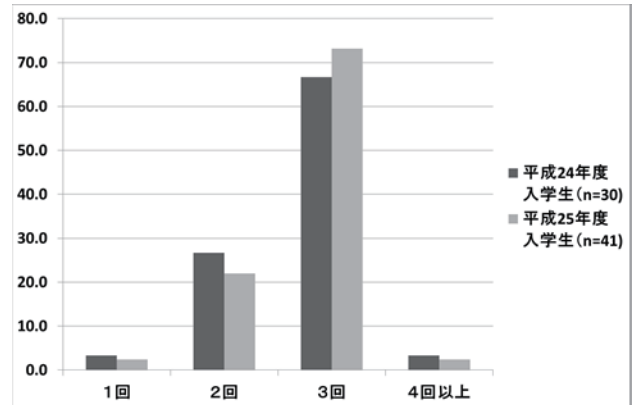


図15. 食事回数

### ④朝食の有無

アンケート調査を実施した当日、朝食を食べてきた学生は、平成25年度入学生の調査対象者のうち82.9%（34人）だった。平成24年度入学生と比べ、平成25年度入学生は、朝食をとらない学生の割合が少ないことがわかる。

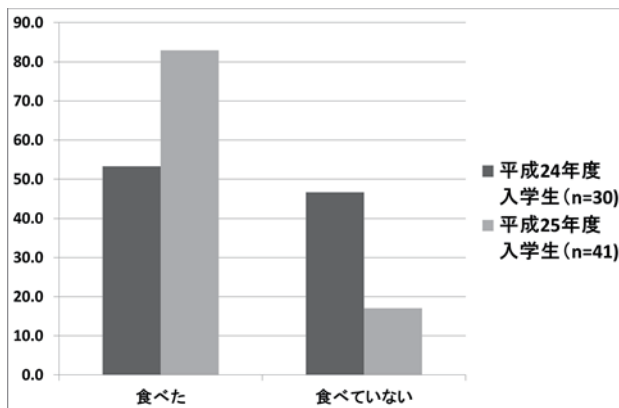


図14. 朝食の有無

### ⑥夕食の自炊回数

平成25年度入学生に一週間のうち、夕食を何回程度自炊するか聞いたところ、「2~3回」と回答した学生が最も多く48.8%（20名）となっていた。平成24年度入学生と比べると平成25年度入学生の方が自炊している回数が相対的に多いことがわかる。

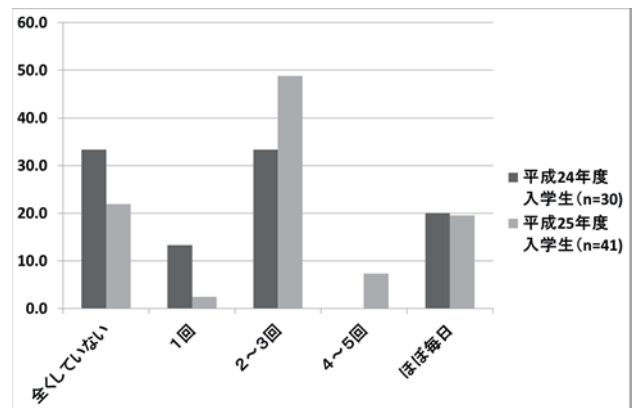


図16. 夕食の自炊回数

### 3-6 アルバイト

#### ①アルバイトの有無

平成24年度入学生と比べ、平成25年度入学生の方がアルバイトをしていない割合が高い。平成24年度入学生の「していない」44.8%（13名）に対し、平成25年度入学生は「していない」61.0%（25名）となっている。

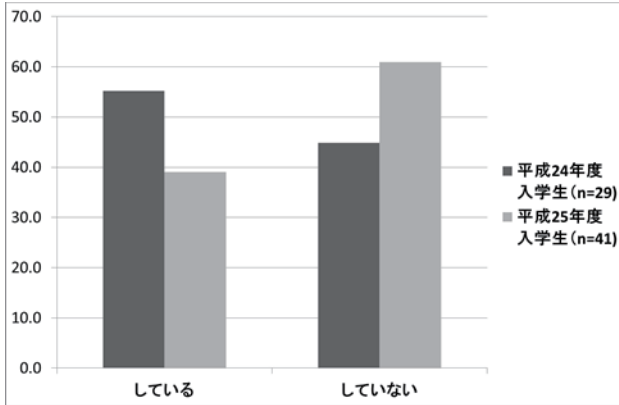


図17. アルバイトの有無

#### ③アルバイト時間（アルバイトしている者のみ）

平成25年度入学生のうち、アルバイトをしている学生に一週間の平均勤務時間を尋ねたところ、「11時間以上」と回答した学生が68.8%（11名）と最も多くなっていた。平成24年度入学生と比べ、アルバイト時間が大幅に増加していることがわかる。

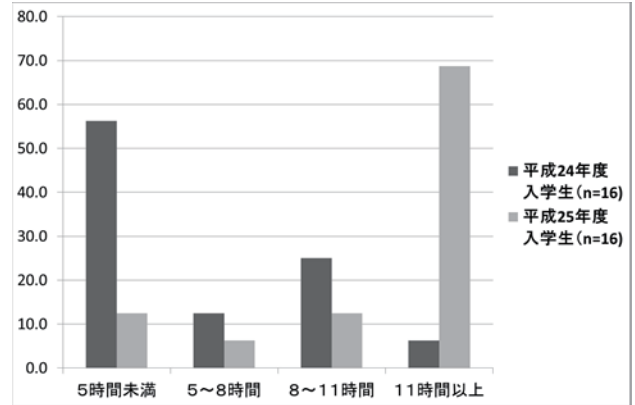


図19. アルバイト時間

#### ②アルバイト収入（アルバイトしている者のみ）

平成25年度入学生のうち、アルバイトをしている学生に、収入の主な使い道を尋ねたところ、「生活費」と回答する学生が56.3%（9名）と最も多くなっていた。また、平成24年度入学生に該当者がいなかった「学費」「将来のための貯金」にも該当者がみられた。

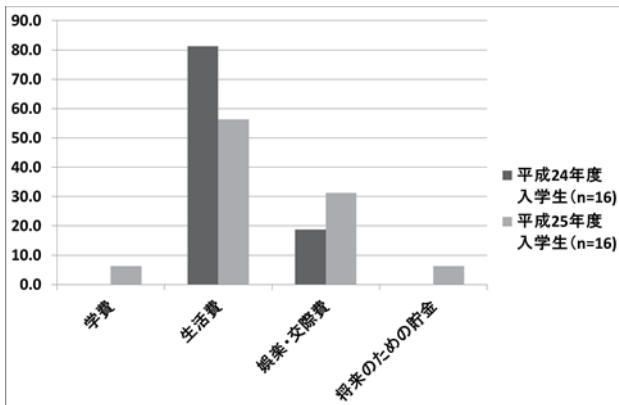


図18. アルバイト収入

#### ④アルバイト満足度（アルバイトしている者のみ）

平成25年度入学生のうち、アルバイトをしている学生に、現在のアルバイト先に対する満足度を尋ねたところ、「やや満足している」と回答した学生が最も多く62.5%（10名）となっていた。平成24年度入学生と比べると相対的に満足度が上がっていることがわかる。

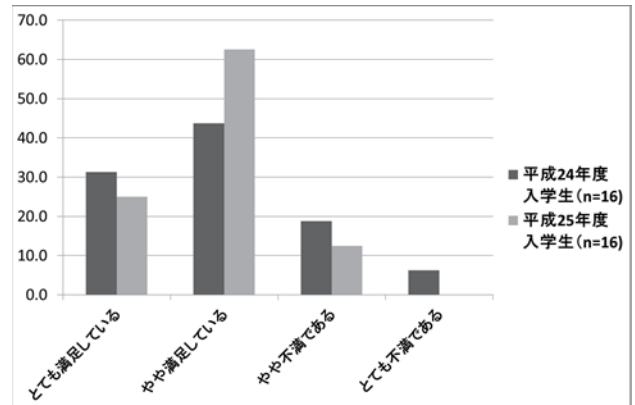


図20. アルバイト満足度

### ⑤通勤方法（アルバイトしている者のみ）

平成25年度入学生のうち、アルバイトをしている学生に、アルバイト先までの主な通勤方法を尋ねたところ、「バス」と回答する学生が最も多く45.5%（5名）となっていた。平成24年度入学生には主にバスを利用すると回答する学生はいなかったため、大きな違いといえよう。

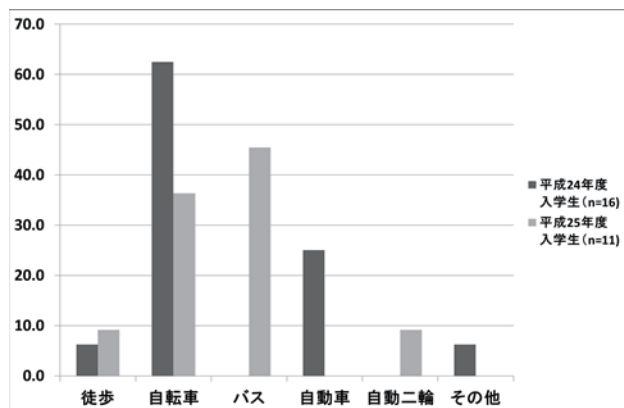


図2 1. 通勤方法

### ⑥希望するアルバイト

平成25年度入学生に、今後どのようなアルバイトをしたいか尋ねたところ、「収入が良い」が最も多く48.8%（20名）となっていた。なお、平成24年度入学生にはみられなかった「新しい知識・技術を学ぶことができるもの」の該当者が平成25年度入学生にはみられた。

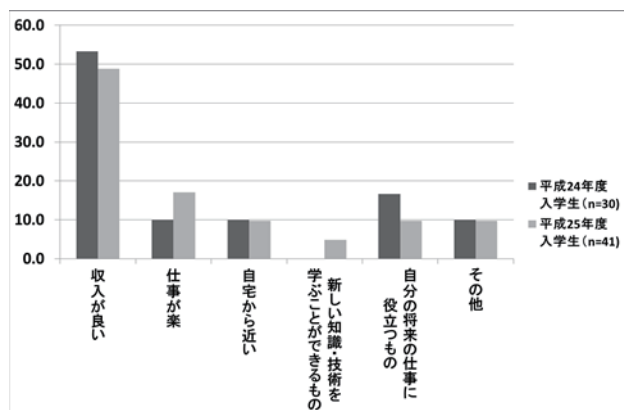


図2 2. 希望するアルバイト

## 4 おわりに

これまで、平成25年度に本学萩キャンパスに入学した学生を対象とした生活実態調査の結果を報告してきた。最後に平成24年度入学生との比較から平成25年度入学生の特徴を考察し、まとめて代えたい。

平成24年度入学生と比べた場合、平成25年度入学生の特徴として挙げられるのは、進路希望の明確さと健康面の安定性だろう。卒業後の進路については、平成24年度入学生の「決めている」33.3%（10名）に対し、平成25年度入学生は「決めている」61.0%（25名）となっていた。また、現在の健康状態、朝食の有無、一日の食事回数、夕食の自炊回数いずれも平成25年度入学生の方が良好だ。その一方、気にかかるのは、アルバイト時間である。平成25年度入学生の中でもアルバイトをしている学生をみても、68.8%（11名）は一週間に「11時間以上」アルバイトしているという。大学入学当初に備わっていた進路希望や安定した健康状態が過度のアルバイトによって損なわれてしまっただけでなく、元も子もない。平成25年度入学生については特に、大学四年間を通して、学業とアルバイトとを両立させていくことが求められているのではなかろうか。

[註]

註1 グラフの縦軸はパーセントを示している。以下すべてのグラフについて同様。

[引用・参考文献]

- 1) 西本佳代；平成24年度学生生活実態調査報告，山口福祉文化大学研究紀要，7，125-132，2013
- 2) 山田浩之・葛城浩一；現代大学生の学習行動（高等教育研究叢書90），広島大学高等教育研究開発センター，2007
- 3) NHK放送文化研究所；日本人の生活調査2010  
[http://www.nhk.or.jp/bunken/summary/research/report/2011\\_04/20110401.pdf](http://www.nhk.or.jp/bunken/summary/research/report/2011_04/20110401.pdf)（2012/8/3）